

同窓会 たより



千葉大学看護学部・
看護学研究科同窓会

〒260-8672 千葉市中央区亥鼻1-8-1

ホームページ <https://www.n.chiba-u.jp/dousoukai/index.html>

ご挨拶

同窓会会長 岡田 忍 (3期)

3月13日にマスク着用の方針が変更になり、5月の連休明けには新型コロナウイルス感染症は現在の2類相当から5類に移行する方針が発表されました。同窓生の皆様はウィズ・コロナの春をどのように過ごされたでしょうか？新年度にあたり、同窓生の皆様にご挨拶を申し上げます。

パンデミックが始まった2020年のたよりの原稿を読み返していましたが、ちょうど緊急事態宣言が出された後で、その時の先の見えない不安な気持ちをあらためて思い出しました。3年以上にわたる新型コロナウイルス感染症の流行中、医療・介護、行政、教育などそれぞれのお立場で同窓生の皆様は大変なご苦労をされてきたと思いますが、ようやく一つの区切りがついたのではないかと感じております。

新型コロナウイルス感染症のパンデミックは、2021年度・2022年度の活動方針としてあげていた「ICTの活用」を一気に加速させ、昨年度は総会、同窓会企画を初めてWebで開催しました。同窓会企画では、「キャリア・働き方に悩める若者を元気に」というテーマで14期、18期、35期と卒業期の異なる3名の同窓生がプレゼンテーションを行った後、ブレイクアウトルーム機能を使って少人数のグループで交流するなど、対面と変わらない雰囲気を楽しむことができました。資料の印刷やお子さんを連れて参加する同窓生のための託児の準備も不要になり、役員の負担の軽減にもつながりました。

このようなWebでの総会や同窓会企画は、同窓会が設立された昭和55年（1980年）には想像もつかなかったことであり、社会の様相の変化は同窓会活動にも様々な影響を及ぼしています。残念ながらその中には、Web会議システムのように望ましいものばかりでなく、同窓会活動の根本的な見直しを迫られるようなものも含まれています。かつては、同窓生の動向を知る重要なツールであった紙媒体の名簿は、オレオレ詐欺や商品の勧誘などその趣旨とは異なる目的のために悪用され、早急の見直しを迫られています。同窓会名簿によるとと思われる情報漏洩に関しては、同窓会としても十分に注意しているにもかかわらず多くの同窓生の皆様にご迷惑をおかけしており、この場をお借りしてお詫びを申し上げます。

しかしながら、卒業後の同窓生の動向の把握は、同窓生だけでなく母校である千葉大学看護学部・看護学研究科にとっても大きな意義のある重要な活動であり、今後とも継続していくべき活動であることは間違いありません。そこで、2023年度はこれまでの準会員・会員と同窓会のつながりを強化する活動に加え、会員情報の適切な管理について重点的に取り組みたいと考えております。本件については、名簿・たより委員会の方で意向調査を計画しましたので、一人でも多くの同窓生の皆様の意向が反映されるよう是非ご協力をお願い申し上げます。最後になりましたが、新年度が同窓生の皆様にとって良いものになるよう心より願っております。

2023年度の活動方針

- ①学術集会参加費助成、図書館への寄付など現在実施している準会員・会員と同窓会のつながりを強化する活動を継続する。
- ②会員情報の適切な管理について検討する。

看護学研究院長挨拶

千葉大学大学院看護学研究院長 諏訪 さゆり (10期)

千葉大学看護学部の同窓会におかれましては、いかがお過ごしでしょうか。令和5年度は、マスクの着用をはじめとする新型コロナウイルス感染症の対策を各自の判断で行っていくこととなりますが、皆様に安全で安心な日々を過ごしていただきたいと思っております。

皆様には様々な場面で本学をご支援いただいておりますが、令和5年3月に、無事に卒業生、修了生を送り出すことができました。コロナ禍、電気・ガス料金の高騰のために、思い描いていた学生生活とはならなかったと思いますが、一人一人が掲げた目標に向かって着実に努力したことを誇りに思い、これからも歩んでいただきたいと思います。

令和5年3月末で中村伸枝先生が定年退職され、千葉大学名誉教授となりました。これまでご教示いただいたことを大切にしながら、歩みを続けていきたいと思っております。

4月からは、先端実践看護学研究部門、高度実践看護学講座、教授として富岡晶子先生が着任されました。主に小児看護学に関する科目を担当されます。そして生活創成看護学研究部門、健康増進看護学講座、教授として大内基司先生も着任されました。大内先生は基礎医学に関する科目を担当されます。お二人の先生にもお力を存分に発揮していただき、教職員一丸となって、看護学部と看護学研究科の教育の充実と研究の発展を目指してまいります。

さて、これまでご報告したとおり、令和3年4月より本学は改組して千葉大学大学院看護学研究院となり、看護学部と看護学専攻（博士前期課程・博士後期課程）、さらに附属看護実践・教育・研究共創

センター・附属専門職連携教育研究センターの2センターを有して、看護学研究院に所属する教員や千葉大学の他研究院の教員が、千葉大学大学院看護学研究科や看護学部における教育に協働して参画できるようになっています。特に看護学研究科博士前期課程は、看護学コースと看護実践学コースの2コースから構成され、しかも看護実践学コースは、看護管理学プログラム、高度実践看護学プログラム（小児看護、がん看護のCNS育成）、特定看護学プログラムの3プログラムに分かれています。授業では、コースやプログラムを超えて大学院生が共に学ぶ魅力的な共通基盤科目が多数開講されています。同窓会の皆様におかれましては、ご自身、あるいは関係者について、看護学研究科への進学をぜひご検討いただけたら幸いです。

本学の教育における新たな取り組みをご紹介します。看護学部では、社会からの要請に応じて看護を革新できる人材を育成するために、令和5年度から新カリキュラムでの教育を開始しました。看護学教育におけるデジタルトランスフォーメーション化（DX化）にも挑戦しておりますので、様々な機会にその具体をご報告したいと思います。さらに、附属専門職連携教育研究センターがリーダーシップを取り、世界の様々な地域固有の健康課題に取り組み、それぞれの状況に応じた最適な解決策を導き出せる人材を育成するために、千葉大学全学の学生と大学院生を対象として、グローバル地域ケアIPEプラス創生人材の育成プログラム（Global Regional Interprofessional Education Plus Program）も令和4年10月から展開しています。インド、イギリス、オーストラリアといった国々の専門分野の異なる学生が、メタバースも活用しながら互いに学び合います。詳細は本学ホームページでご覧いただければ幸いです。

これからも、常に、より高きものを目指していく所存です。同窓会の皆様の応援をいただきたく、よろしくお願い申し上げます。

2022年度 総会報告

2022年6月19日（日）14時30分から、オンライン総会を開催しました。

総会では、会長挨拶の後、総務委員会から卒業生5名と準会員1名に対する学術集会参加費助成、名簿・たより委員会から委員会組織・活動の統合、広報・渉外委員会から40周年記念誌のホームページ公開等についての活動報告に加え、会計担当から2021年度決算が、報告されました。

2022年度議案では、岡田会長から2022年度活動方針の提案、各委員会の活動計画として、総務委員会からご逝去会員の名簿情報管理と寄付への対応、名簿・たより委員会からたよりの発送、広報・渉外委員会からオンライン企画の開催等について説明があり、これらの活動に対して2022年度予算案が提案され、承認されました。

また、審議事項では、岡田会長から千葉大学医学部附属病院への寄付について提案がなされ、同窓会会員・準会員への支援を目的とした寄付を行うことが説明され、承認されました。総務委員会からは慶弔事への対応について提案がなされ、原則として同窓会へ連絡が入った場合のみ対応すること、対応の具体については理事会審議で決定し記録に残していくことが説明され、承認されました。

2022年度オンライン総会へのご参加やご意見をくださり、誠に有り難うございました。

千葉大学校友会 **Curio** が **Facebook** に移行します

千葉大学校友会は学部同窓会会員、教職員、在学生等を会員として、千葉大学及び各学部同窓会の発展に寄与し、会員相互の親睦・情報交換を図ることを目的に2002年に設立されました。

千葉大学校友会では卒業生の皆様をはじめ、千葉大学を応援してくださる皆様へ情報発信を行うため、「千葉大学校友会Facebook」を開設していますので、ぜひフォローをお願いします。



千葉大学校友会 URL

<https://www.facebook.com/ChibaUnivAlumni/>



お問合せ先 千葉大学校友会事務局
koyukai@office.chiba-u.jp

2022年度千葉大学看護学部・看護学研究科同窓会
決算

※1 予算との比較（計算式）収入 『決算－予算』、支出『予算－決算』、△表記⇒マイナス、無印⇒プラス

正会員の収支

項 目		予 算	決 算	予算との比較※1
収入の部	計	6,535,823	6,526,813	△ 9,010
1. 会費	計	6,526,823	6,526,813	△ 10
1) 繰越金		5,446,813	5,446,813	0
2) 2022年度新入会員終身会費（12,000円×90名） 内訳：学部卒業生81名 修了生9名		1,080,000	1,080,000	0
3) 利子		10	0	△ 10
2. 寄付	計	0	0	0
1) 名簿購入時寄付		0	0	0
3. 名簿委員会	計	9,000	0	△ 9,000
名簿代振込（3,000円×2件）他		9,000	0	△ 9,000
支出の部	計	6,535,823	6,526,813	9,010
1. 理事会	計	453,000	259,618	193,382
1) 会議費		10,000	0	10,000
2) 交際費 内訳： 校友会費（50,000円） 慶弔金（30,800円） 亥鼻祭への寄付（50,000円） 学部オープンキャンパス運営補助（支出無し）		210,000	130,800	79,200
3) 準会員への支援 内訳： 学部学生への学術集会参加費助成（2022年度1件助成）		100,000	6,000	94,000
4) 千葉大学附属図書館亥鼻分館への寄付 内訳： 看護系専門図書寄贈 （「早産児・低出生体重児の成長と発達のみかた」他21点）		100,000	100,000	0
5) 人件費（事務作業費1,100円×10時間）		11,000	0	11,000
6) 通信費（同窓会用Zoom年間ライセンス契約費）		20,000	22,158	△ 2,158
7) 雑費（振込手数料等）		2,000	660	1,340
2. 総務委員会	計	33,000	6,685	26,315
1) 会議費（交通費・茶菓子代）		10,000	0	10,000
2) 郵送費（事務連絡通信費）		6,000	0	6,000
3) 人件費（事務作業費1,100円×10時間）		11,000	0	11,000
4) 消耗品費（評議員連絡用封筒・紙代等）		5,000	6,685	△ 1,685
5) 雑費（振込手数料等）		1,000	0	1,000
3. 名簿・たより委員会	計	1,243,816	1,011,103	232,713
1) 会議費（交通費・茶菓子代）		10,000	0	10,000
2) 名簿制作費（今年度実施無し）		0	0	0
3) たより印刷発送費		971,816	852,675	119,141
4) メンテナンス・データ処理		135,000	110,000	25,000
5) 個人票関係費（督促ハガキ印刷発送費、後納郵便代）		100,000	36,383	63,617
6) 人件費（事務作業費1,100円×20時間）		22,000	11,000	11,000
7) 郵送費（名簿購入者への郵送等）		2,000	0	2,000
8) 雑費（振込手数料等）		3,000	1,045	1,955
4. 広報・渉外委員会	計	145,000	86,830	58,170
1) 会議費（交通費・茶菓子代）		10,000	0	10,000
2) ホームページ更新費		45,000	15,125	29,875
3) 印刷費（同窓会企画周知用チラシ印刷）		55,000	55,715	△ 715
4) 渉外費 内訳： 同窓会企画謝金※紙面総会・企画実施無しのため支出無し 同窓会企画交通費※紙面総会・企画実施無しのため支出無し 入学記念品作成代 ※2021年度に作成済み（クリップボード500個）		20,000	15,000	5,000
5) 消耗品費		1,000	0	1,000
6) 人件費（事務作業費1,100円×10時間）		11,000	0	11,000
7) 郵送費		1,000	0	1,000
8) 雑費（振込手数料等）		2,000	990	1,010
5. 予備費	計	4,661,007	5,162,577	△ 501,570
1) 次年度への繰越金			5,162,577	

2022年度 千葉大学看護学部・看護学研究科同窓会の会計監査を実施した結果、
収支共に正当であることを認めます。

2023年3月28日
監査
和佳 淑子
小川 純子

2023年度千葉大学看護学部・看護学研究科同窓会
予算(案)

項 目		予 算
収入の部	総計	6,817,604
1. 会費	計	6,808,604
1) 繰越金		5,776,594
2) 2023年度新入会員終身会費（12,000円×86名） 内訳：学部卒業生80名 修了生6名		1,032,000
3) 利子		10
2. 寄付	計	0
3. 名簿委員会	計	9,000
名簿代振込見込み（3,000円×3件）		9,000
支出の部	総計	6,817,604
1. 理事会	計	474,000
1) 会議費		10,000
2) 交際費 内訳： 校友会費（50,000円） 慶弔金（70,000円）※退官記念品等含む（5名） 亥鼻祭への寄付（50,000円） 学部オープンキャンパス運営補助（60,000円）		230,000
3) 準会員への支援 内訳： 学部学生への学術集会参加費助成（上限10,000円×10件）		100,000
4) 千葉大学附属図書館亥鼻分館への寄付		100,000
5) 人件費（事務作業費1,100円×10時間）		11,000
6) 通信費（Zoom年間契約費）		21,000
7) 雑費（振込手数料等）		2,000
2. 総務委員会	計	33,000
1) 会議費（交通費・茶菓子代）		10,000
2) 郵送費（事務連絡通信費）		6,000
3) 人件費（事務作業費1,100円×10時間）		11,000
4) 消耗品費（評議員連絡用封筒・紙代・託児用品代等）		5,000
5) 雑費（振込手数料等）		1,000
3. 名簿・たより委員会	計	1,247,573
1) 会議費（交通費・茶菓子代）		10,000
2) 名簿制作費（今年度実施無し）		0
3) たより印刷発送費		964,573
4) メンテナンス・データ処理		135,000
5) 個人票関係費（督促ハガキ印刷発送費、後納郵便代）		100,000
6) 会員情報訂正用ページのシステム管理費		11,000
7) 人件費（事務作業費1,100円×20時間）		22,000
8) 郵送費（名簿購入者への郵送代等）		2,000
9) 雑費（振込手数料等）		3,000
4. 広報・渉外委員会	計	125,000
1) 会議費（交通費・茶菓子代）		10,000
2) ホームページ更新費		45,000
3) 印刷費（同窓会企画周知用チラシ印刷）		55,000
4) 渉外費 内訳： 同窓会企画謝金※紙面総会・企画実施無しのため支出無し 同窓会企画交通費※紙面総会・企画実施無しのため支出無し 入学記念品作成代 ※2021年度に作成済み（クリップボード500個）		0
5) 消耗品費		1,000
6) 人件費（事務作業費1,100円×10時間）		11,000
7) 郵送費		1,000
8) 雑費（振込手数料等）		2,000
5. 予備費	計	4,938,031





2023年度同窓会総会のご案内

新緑の候、会員の皆様にはますますご健勝のこととお慶び申し上げます。

2023年度同窓会総会につきましては、総会資料に基づく書面総会として、総会議事に対する表決をいただきます。

【総会議事】＊総会議事として以下の資料を掲載してあります。内容をご確認のうえ、表決についてお知らせください。

- ・2022年度報告：活動報告（別添資料）、決算報告（資料1）
- ・2023年度議案：活動方針、新評議員案（資料3）、新委員会案（資料4）、活動案（別添資料）、予算案（資料2）

＊総会議事に対する表決に関しまして、総会資料に掲載するQRからWEBページにアクセスいただき、7月20日（木）までにご回答ください。期日までのご回答がない場合は、承認とさせていただきます。

WEB上でお答えいただいた表決を以って、審議を進めさせていただきます。議事に対するご意見がございましたら、〈ご意見欄〉へのご入力をお願いいたします。どうぞ宜しくお願いいたします。



2023年度総会議案

2023年度の活動方針については会長の「ご挨拶」をご参照ください。2022年度決算報告書は資料1に、2023年度予算案は資料2に示します。また、新評議員案を資料3、新委員会案を資料4に示しました。評議員会から継続して会長として岡田忍氏を推薦します。また、副会長に引き続き石橋みゆき氏、丸山優氏を推薦します。

資料3 2023年度 千葉大学看護学部・看護学研究科同窓会 新評議員案

（ ）は卒業期

会 長 岡田 忍（3）	13期 常田 千佳 末永 由理	27期 国原 健史 鉄矢 朋子	40期 澤本 美冴 黛 瑛里香
副会長 石橋みゆき（14）	14期 石橋みゆき 加藤美江子	28期 鈴木 悟子 宮川 祐子	櫻庭 唱子
丸山 優（21）	15期 大塚 千春 飯野 理恵	29期 松岡 大樹 太田 愛	41期 川末菜央子 松村 彩
評議員	16期 新井 典子 飯島 久美	太田 潤	42期 小川 義弘 小田桐映舞
1期 伊藤 隆子	17期 北島 美奈 松林 美子	30期 佐野 元洋 渡邊 賢治	43期 加藤美香子 峰木 瞳
2期 田中 裕二 中村 伸枝	18期 神津 三佳 中嶋 秀明	31期 屋久 祐介 吉田 真美	44期 小川 華歩 原田 千聡
3期 岡田 忍	永田亜希子	32期 山崎由利亜 橋内 伸介	45期 佐々木康乃 高取 志保
4期 島田 尚江	19期 藤本 紀子 齊藤 千晶	33期 伊藤真理子 松戸 麻華	修了生 仲井 あや
5期 酒井 郁子 本田 彰子	20期 長瀬明日香 渡邊 美和	34期 青木 美和 能川 琴子	監 事 和住 淑子（10）
6期 児玉三枝子 遠藤 恵子	21期 菅谷 綾子 時田 礼子	後藤 靖江	小川 純子（15）
7期 亀崎 路子 北川 公子	22期 山下 亮子 高橋 良幸	35期 荻野穂奈美 霜村 菜奈	会 計 岩瀬 靖子（21）
8期 湯浅美千代 山倉 美典	23期 長谷川智子	田中 貴大	山崎由利亜（32）
9期 荻野 雅	24期 小川 俊子 秋山 愛	36期 川島 悠佳 加瀬竜太郎	佐々木ちひろ（34）
10期 錢 淑君	村山 陽子	37期 工藤ひかり 田近 祐子	
11期 野崎 章子 坂上 明子	25期 伊藤 明子 松本美佐子	38期 富田 千尋 矢崎 萌子	
12期 末永 香 島田 広美	26期 鈴木 和也 内海加奈子	39期 森元 花織 大和田理恵	
河部 房子 石丸 美奈	島村 敦子	池田 結	

資料4 2023年度 千葉大学看護学部・研究科同窓会 新委員会案

（ ）は卒業期

総 務 委 員 会	委 員 長	中水流 彩（24）			
	副 委 員 長	小川 俊子（24）			
	委 員	佐野 元洋（30）	坂井 文乃（33）	櫻庭 唱子（40）	
名簿・たより委員会	委 員 長	雨宮 歩（26）			
	副 委 員 長				
	委 員	野崎 章子（11）	永田亜希子（18）	椿 祥子（23）	宇田川友佳（29）
広報・渉外委員会	委 員 長	時田 礼子（21）			
	副 委 員 長	石丸 美奈（12）			
	委 員	加藤美江子（14）	神津 三佳（18）	山下 亮子（22）	田中 貴大（35）
		佐藤 太一（35）	武川 美樹（35）	沓澤 夏菜（40）	坂口 葵（40）

学術集会参加報告

平成25年度より、学部生の準会員に対して学術集会参加費を助成しています。また、卒後1年以内に卒業研究を発表する会員の学術集会参加費を助成しています。2022年度は1名に対して助成しました。2023年度も助成を継続し、多くの同窓生が学術集会に参加できるよう広報に力を入れていく予定です。

助成対象者	会員／準会員	学術集会名
吉田 佳世 さん	会員(卒業生)	文化看護学会第15回学術集会

亥鼻祭2022 開催のご報告

2022年度亥鼻祭実行委員会
サークル実行委員長

中山 哲 志



2022年度亥鼻祭実行委員会



亥鼻バンドサークルの演奏に観客が熱狂

令和4年11月6日、亥鼻祭2022が亥鼻キャンパスにて開催されました。新型コロナウイルスの影響により、一昨年はClusterを利用したバーチャルリアリティでの開催。昨年はYouTubeライブによる配信形式での開催となっており、実に3年ぶりの現地開催となりました。天候にも恵まれ、今年は1,500名近くのお客様にご来場いただきました。

ゐのはな記念講堂では午前10時より、千葉大学医学部附属病院和漢診療科診療教授である並木隆雄先生をお招きして「新型コロナ時代に役立つ漢方薬と養生の話」をテーマにご講演いただきました。人類が苦しめられてきた新興感染症への対抗策を漢方薬と養生の観点から考えるという並木先生のお話は非常に興味深く、ご来場の皆様からも非常に好評でありました。また、午後1時からは千葉大学大学院看護学研究院教授・附属看護実践・教育・研究共創センター長である和住淑子先生と看護学部の学生数名による、国立大学唯一の看護学部をテーマにした座談会が行われました。本学看護学部に関する深掘りトークは中高生を中心に多くの観客の方の注目を集めました。

ゐのはな記念講堂前駐車場には特設ステージも設置され、亥鼻ジャズ研究会のさわやかな演奏で幕を開けました。その後も亥鼻バンドサークル、舞部、なぎなたサークルが

ステージを盛り上げ、最後は亥鼻ダンスサークル総勢100名の圧巻のダンスパフォーマンスで幕を閉じました。

また、オズワルド、ひょっこりはん、天狗の3組のお笑い芸人の方々によるお笑いLIVEも3年ぶりに復活し、ステージ前には多くの観客が詰めかけました。

看護学部棟でも多くの企画が行われ、応急救護体験や小さな子供向けの医療体験など、医療系キャンパスならではのアカデミックな企画をご覧いただきました。受験生向けの企画も非常に好評で、キャンパスツアーは募集開始から数日で定員が埋まり、受験相談会に関しましても当日枠が午前中にはすべて埋まり、受験生からの注目の高さがうかがえました。

今年度も多くの先生方、企業・団体様のご寄付・ご協賛に支えられ、無事亥鼻祭を開催することができました。コロナ禍を乗り越え、こうして亥鼻キャンパスで再び亥鼻祭を開催できたのもひとえに支えてくださる皆様あってこそでございます。この場をお借りして厚く御礼申し上げます。来年度以降もより良いものを作っていけるよう努力してまいりますので、引き続き亥鼻祭の成長を見守っていただければ幸いです。

GRIP始動

千葉大学大学院看護学研究院 酒井郁子（5期生）

GRIPとは、グローバル地域ケアIPE+創生人材の育成（Global & Regional Interprofessional Education Plus Program：GRIP Program）の略称です。2022年度の文部科学省の「大学の世界展開力強化事業」の一つです。千葉大学大学院看護学研究院がイニシアチブをとり申請したこのプログラムは、本事業において看護系で初めて採択されました。世界中の多様な「地域特有の健康課題」に取り組み、それぞれの現場での最適解を導き出す人材を育成するため、本学で2007年から実施している医薬系学部を横断した「専門職連携教育プログラム－亥鼻IPE」を全学に発展させ、さらに複数の国の複数の専門領域の学生がお互いに学びあうプログラムとなっています。JV-Campus等を活用した事前学習ののち現地演習を経て、バーチャルワークショップで共有していきます。

どの国、どの地域であっても、自国でも他の国でも健康関連の課題に他の専門職とともに取り組み、文化的対応能力及び文化的謙虚さを基盤として、現場での最適解を導き出すことができる自律した組織人の育成をめざします。WHOが提唱するUniversal Health Coverage「全ての人が適切な予防、治療、リハビリ等の保健医療サービスを、支払い可能な費用で受けられる状態」を推進し、SDGsの開発目標3「すべての人に健康と福祉を」の実現のために寄与する、地域ケアを創生できる専門職を養成します。

GRIPプログラムは、中核となる学習活動としてInterprofessional Service Learning（ISL）を実施します。実渡航し、現地で実際に行うフィールドスタディとその前後の、事前学習、事後学習（バーチャルワークショップ）の3つのパートからなる構成です。学術領域や学部・大学院を越えて、参加学生がチームとなって、それぞれの専門性や個性、強みを発揮して、健康に関連する社会課題の解決に取り組みます。

カウンターパートとして、英国レスター大学、インドシンバイオス国際大学、オーストラリアモナシュ大学と交流締結を結び、今年度はトライアルとして、インドプログラム「難しい状況にあるこどものサポート」日本プログラム「高齢者が健康に生き抜くためのソーシャルキャピタルの形成と災害教育」を実施しました。インドプログラムでは、千葉大学から医学部、看護学部、薬学部、国際教養学部から10人（うち2名は大学院生）がインド西部のプネという都市とその周辺の村で10日間にわたりフィールドワークを行いました。また日本プログラムでは、シンバイオス国際大学から10名（うち2

名大学院生）が来日し、千葉県及び東京都で、日本の地域包括ケアシステムにおける自助、互助、共助の場でのフィールドワークを行いました。

実際に千葉大学の学生たちが、インドの村々を回り、難しい状況にあり保護が必要な子どもたちの施設を訪問した時には、クレヨンしんちゃんやBTSを共通の話題として盛り上がるなど、子どもたちの明るい笑顔にみなさんハートをわしづかみされていた様子でした。このような子どもたちをささえるNGOのメンバーからの「思いと行動」をうかがう機会を得て、「すべての人に健康と福祉を」というSDGs開発目標3への具体的な道筋について考えを深める機会となりました。

また千葉の亥鼻キャンパスを拠点にしてシンバイオス国際大学の学生を受け入れた際には、亥鼻キャンパスの医学部看護学部薬学部の学生が受け入れのボランティアとしてフィールドへの同行および通訳を担い、千葉大学の学生たちはフィールド活動を通して、日本の保健医療福祉の特徴に気づく体験にもなったようです。また受け入れ先の施設の職員や当事者の方々からは、学生たちの訪問により自分たちの組織や活動の強みを再認識する機会となった、という感想を多くいただきました。なによりも、フィールドで、手作りのおやつなどを用意して、インドから来た学生たちと日本の学生たちをまるっと温かく迎えてくださる日本の高齢者のみなさまの懐の深さにほんとうに感動しました。

これらのプログラムを通して、シンバイオス国際大学と千葉大学の学生が専門領域も学年も、国境も超えて一つのチームとなっていくプロセスをこの目で見る事ができたことは、亥鼻IPEを15年にわたり展開してきたことの一つの成果と実感することができました。

次年度は、英国レスター大学の学生がこのプログラムに参加するとともに、英国におけるホームレスシェルター支援活動参加プログラムが新たにスタートする見込みです。またモナシュ大学プログラムはその次の年度にスタートさせる予定で現在調整中です。最終的には40人の千葉大学の学生を英国、インド、オーストラリアに派遣し、この3か国から40人の短期留学生を受け入れるプロジェクトになっていきます。

このGRIPプログラムは看護学部がこれまで時間をかけて作り上げてきた地域住民との協働、専門職間の連携、患者利用者家族地域を中心とした健康と医療への貢献活動を象徴するものだと思います。千葉大学看護学部の同窓生の皆さんが活動する場所にももしかするとGRIPプログラムへのご協力をお願いをするかもしれません。その時にはどうぞよろしくお願いいたします。

同窓生の皆様へ

中村伸枝

定年退職の日が近づいた3月、残された仕事や後片付けの傍らで、この原稿を書いています。千葉大学には、看護学部の2期生、修士課程を1993年に修了したのち博士後期課程の1期生として過ごし、小児看護学教育研究分野助手に着任してから、現在まで27年間の在職となりました。

看護学部同窓会には、1991年からたより委員会に所属し、縦書きワープロ・手書きイラストの原稿を作成して、事務部の粥米さんをお願いして輪転機で印刷していただき、手作業で発送作業をしていたこと、同窓会総会後に京成千葉駅近くの「はまゆう」という居酒屋で親睦会を開催していたことが思い出されます。看護学部20周年を過ぎた1997年から30周年を迎えるまで同窓会長を担い、同窓生の増加に伴うたより印刷・発送の業者委託や委員会のあり方などを審



中村先生と岡田先生

議したり、30周年記念事業などに取り組みました。同窓会長は、学部の学位伝達式で祝辞を述べる役割があり、私にとっては「千葉大学看護学部で学ぶ」ということや、「同窓会」について、どのように伝えるか考える機会にもなっていました。祝辞のなかで、「臨床で出会う様々な教育や経験をしてきた仲間は、卒業生の看護に別の視点や広がりをもたせてくれるかけがえのない仲間になる。そして、全国各地の様々な所で活動する同窓生は、共通の視点で看護を語り合える仲間である」と、話した原稿が残っていました。実際に、養護教諭1種免許取得にむけた教育を行ったときには、学童の生活習慣改善を目指した研究活動を通して他大学の養護教諭養成課程の方々と一緒に活動したり、実習記録について教えていただいたことがとても助けになりました。また、授業や実習では千葉大学看護学部の同窓生で養護教諭として働いていた先生方に、本当に多くのご支援をいただき、共通した看護に対する考え方や姿勢があることを実感しました。40周年記念事業に参加された、元小児看護学教育研究分野教授の兼松百合子先生から、「千葉の卒業生は看護観がしっかりしている、実践志向で地道、人間的に信頼できる」といわれると思いますが、

教員はみんなそのようなことを心にかけていると思います。」というメールをいただき、千葉大学看護学部で大切にしていることを再認識したこともありました。

看護学部30周年の年度に話した卒業生祝辞の一部を引用します。「今年度、私には記憶に残る2つの同窓会集会有りました。1つは、看護学部の30周年記念に行われた同窓会でした。この集会のレーシンポジウムでは歴代の先生方がお話をされましたが、病態学の初代教授である橋爪先生もそのお一人でした。橋爪先生は大学に着任される前にお一人で診療所を開いており、そこで予後不良のお子さんの診療に携われた体験を話されました。お子さんとそのご家族に十分な関わりができず、不幸な転機となったことから、それ以降は診療に就くことはなかったと話されました。そして、どうして看護学部の若い皆さんが病をもつ方々に関わっていけるのか、どこにその力があるのか分からないと話されました。そのお話を伺ったときに、私は座長の席から返す言葉がすぐには見つかりませんでした。その集会から1週間後、私はもう1つの同窓会に出ていました。それは、私が卒業後5年間看護師をした病棟の同窓会でした。その集会では医師から、私にとっても思い出深い小児がんの男の子の話がありました。その子は入院を繰り返すなかでたくさんの作文を書いてお

り、その一つ一つがパワーポイントで示され、医師は、男の子からどれほど多くのことを学んだかを話されました。会場には150人余りが参加していましたが、半数以上がその子を知っていました。パワーポイントが映し出される度に会場のあちこちで、その子の思い出を話したり、うなづいたり涙ぐんだりする場面がみられました。その不思議な一体感のなかで、私は橋爪先生への答えが見つかりました。それは、看護はみんなで行っているという、とても簡単な答えでした。どんなに優秀な医師であっても、看護師であっても、様々な問題をもつ対象者に一人で立ち向かうことは困難だと思います。卒業したばかりの皆さんは、技術も知識も未熟な面が多いと思います。それでも皆さんは就職されたチームのかけがえのない一員だと思います。」

インターネットが普及し、コロナ禍の影響もあり、人々の人とのつながり方や感情共有、情報共有のあり方が大きく変化する今日、(人生を終えることも含め)人々の健康生活に看護が寄与できるよう看護実践、教育、研究が進んでいくことを看護学の発展ととらえ、祈念いたします。

長年にわたり多くの方々にご支援いただいたことに、心より感謝いたします。

2022年2月には薄井坦子先生が、2023年1月には横田碧先生が、ご逝去されました。心より、お悔やみを申し上げるとともに、先生方からの教えを継承し発展させていく思いを新たにいたしました。

追悼

自治医科大学看護学部 永井優子(4期生)

横田碧先生は令和5(2023)年1月9日(月)にご逝去され、1月14日(土)に告別式が行われました。本同窓会および卒業生・修了生からもいただいたお花に包まれ、参列した同窓生10名と斎場へお見送りしました。

横田先生は東京大学医学部衛生看護学科の第一期生で、卒業後、病院看護師、ソーシャルワーカーを経て、日本電信電話公社(現日本電信電話株式会社:NTT)健康管理部門のメンタルヘルス相談などで活躍されました。昭和56(1981)年7月に本看護学部精神看護学領域の助教授として着任され、平成3(1991)年4月に臨地実習調整担当教授に昇任、平成11(1999)年3月に定年を迎えられるまで、19年間片道約2時間の通勤を続け、多くの卒業生・修了生の教育指導をなさいました。学部の精神看護学ならびに臨地実習調整の卒業研究では、交流分析(Transaction Analysis)理論に基づいて学生自身の自己分析や事例分析のご指導をなされ、大学院看護学研究科においても多くの修士論文博士論文の指導や論文審査を担当され、隔週火曜の夜に卒業生、修了生が気軽に話ができる場を作るなどの精神的サポートもされ、慕われていらっしゃいました。

本看護学部退職後4月からは岩手県立大学看護学部の看護管理学教授に着任され、平成14(2002)年には「家族とともに創る家族看護学」をテーマに第9回日本家族看護学会学術集会会長を務められました。平成19(2007)年3月に退職されるまでの8年間大学院看護学研究科も含めて教育・指導に活躍され、同年11月に故兼松百合子先生(基礎看護学。本看護学部のご所属は小児看護学教授)とともに岩手県立大学名誉教授の称号が付与されました。

また、横田先生は、交流分析を用いたグループ・スーパービジョンなどの講師として、産業保健領域での相談に関する後進の育成にもご尽力されました。平成23(2011)年から日本産業カウンセラー協会のスーパーバイザー初回認定者としてもご活躍されました。最近まで、産業保健領域の看護職の学習会「知恵の輪会」でコメントをなさることを楽しみにしておられましたが、コロナ禍もありご出席が難しくなると伺っております。

横田先生の研究業績は、主として看護職と患者・家族との援助関係の構造とそこに生じる「交流」に焦点を当て、援助過程を分析し、明確化することによって、援助関係における活動の意味を抽出する研究です。日本看護研究学会学術集会の教育講演「症例研究と看

看護一症例報告と症例研究の異同」(日本看護研究学会誌13巻第1号、p.53-56,1990.)は、事例研究に関する含蓄深い業績の一つです。それはまた、医療保健福祉・教育などの広範囲の専門職が「対人援助に関わる人」として成長・発達していくプロセスの解明でもあり、team approachやinter-professional workなどの連携・協働の基盤となるものでした。

また、「日本生活指導学会」は、生活指導にかかわる教育、看護、心理、福祉、司法福祉などの学際的学術団体で、千葉大学の故城丸章夫名誉教授(教育学)と本看護学部の故見藤隆子教授(看護教育学)と共に昭和59(1983)年12月に設立されました。見藤先生も東大第一期生で、C・ロジャース(臨床心理学者)の来談者中心療法に基づいたカウンセリングを実践されていたので協力されたと思います。見藤先生が初代共同代表、横田先生は理事となり、学会誌「生活指導研究」編集委員長を務め、昭和61(1986)年からは横田先生が共同代表となり、理事としてもご活躍されました。現在は同窓生の熊澤千恵さんが共同代表です。

さらに平成2(1990)年には「日本精神保健看護学会」の設立発起準備委員として、発足集会のフォーラム「精神看護・そのねらいとするもの」のプレゼンターを務められ、平成3(1991)年から9年間、編集担当理事として学会誌とニュースレターの刊行に貢献されました。同窓生の中川幸子さん(ご逝去)と田上美千佳さん(地域創生看護学教授)とともに創設時の基盤を築き、精神看護学の教育研究の発展にご尽力され、平成29(2017)年に名誉会員となられました。

平成16(2004)年同窓会企画の講演会「千葉大学看護学部の原点を振り返ろう～横田碧先生の思い出でおしゃべり～」で、横田先生は個人と学部、看護に影響した社会の歴史を一覧できる資料を作成され、お話しされました。東京大学卒業時に看護師として働いたのは横田先生と兼松先生を含めて3人だけで、特に兼松先生との絆の深さが理解でき、昭和40(1965)年の東大保健学科への改組後は看護師・保健師の資格をもつ卒業生が数人になり、昭和44(1969)年から54(1979)年に本学部第一期生卒業までの10年間は、日本の看護教育の暗黒時代であるとも教えていただきました。

私たち同窓生が生きていくこと、看護の教育や実践の質の向上に努力していることに、いつも労いと励ましをくださった先生の優しいまなざしを忘れることができません。私たちは、看護学教育の基盤を固めるためにご尽力された横田先生を消えることのない燈火として胸に抱いて歩んでいくことを誓いつつ、先生のご冥福を心よりお祈り申し上げます。

会員情報の変更について

会員情報に変更がない方はご連絡不要になりました。会員情報に変更がある方は、できるだけWEBページで、それが難しい場合には個人票で会員情報の変更をお願い致します。また、「近況報告」ご希望の方、総会について「非承諾」・ご意見のある方も、6月末日までにご登録をお願い致します。WEBページでは一年中、会員情報の変更が可能です。

<WEBページによる会員情報変更、近況報告、総会へのご意見登録方法>

<https://ours1.net/chiba-univ.nursing/> にアクセスします。

右のQRからでもアクセス可能です。→

ID: chiba-univ.nursing
パスワード: dosokai

「登録情報変更あり」をクリックして内容を入力し送信してください。
ご自分のメールアドレスにも確認メールが届きます。近況報告や総会へのご意見は「登録情報変更なし」をクリックし、ご登録ください。



会員情報更新・変更
WEBページ QR

<個人票による会員情報変更、近況報告、総会へのご意見登録方法>

可能な場合にはWEBページよりご登録をお願いいたします。変更・訂正事項記入欄に修正内容をご記入、または近況報告や総会へのご意見をご記入ください。同封の個人情報保護シールを上貼して、ご返送ください。

変更方法に関する注意点

- ☆勤務形態、設置主体、職種、職位は表から番号を選択してください。
- ☆現在学生の方は最終学歴の「学校名」の欄に学校名を記し、(在学中)とご記載ください。勤務を続けたまま学生をされている方(科目等履修も含む)は、勤務状況と学校名の両方のご記載をお願いいたします。
- ☆名簿発行の際に連絡先の掲載を希望しない場合は、該当する記載欄に(不掲載)とご記載ください。

会員情報に変更がありましたら、WEBページまたは個人票の返送により必ず変更してください。

会員情報は、同窓会からのあらゆる連絡(たよりの発行、名簿の発送など)のために使用しております。また、卒業生・修了生の現在の活動状況を知る重要かつ唯一の資料となっておりますので、必ず会員情報の変更をしてくださるようお願い申し上げます。

！名簿の情報流出にご注意ください！

同窓会では、皆さまから集めた個人情報は厳重に保管し、また名簿も信頼のおける業者に作成を依頼しており、こちらから個人情報が流出することは一切ありません。昨年度、名簿発行後に情報が流出したと考えられる事例が報告されております。皆さまのお手元にある名簿の管理については充分にご注意いただきますようお願いいたします。古くなった名簿を破棄する場合には裁断(シュレッダ)するなどしてデータが万が一にも流出しないよう管理の徹底をお願いいたします。

令和5年度 大学院看護学研究 教員紹介

研究部門	講 座	教 授	准教授	講 師	助教・助手	特任教員 技術職員
先端実践看護学	高度実践看護学	岡田 忍 富岡 晶子 眞嶋 朋子 増島 麻里子 酒井 郁子	佐藤 奈保	小川 俊子	仲井 あや 中水流 彩 楠 潤子 佐野 元洋 佐伯 昌俊	(技術専門職員) 西尾 淳子 (特任研究員) 國武 由香里 (特任講師) 田崎 牧子 (特任専門職員) 佐藤 睦 (特命助教) 西宮 岳
	高齢社会実践看護学	正木 治恵	石橋 みゆき 黒田 久美子		佐々木ちひろ	(特任助教) 石井 彩 (特任助教) 山崎 由利亜
生活創成看護学	健康増進看護学	小宮山 政敏 大内 基司 森 恵美 北池 正 池崎 澄江	前原 邦江	雨宮 歩	木村 佳代子 遠山 房絵	(特任助教) 田原 裕希恵
	地域創成看護学	田上 美千佳 宮崎 美砂子 石丸 美奈 諏訪 さゆり ※研究院長	飯田 貴映子	岩瀬 靖子	鈴木 美央 坂井 文乃 湯本 晶代	(国際高等研究基幹 特任研究員) 佐藤 太一 (特任助教) 犬山 彩乃
文化創成看護学	文化看護学		斉藤 しのぶ		飛世 真理子 齊藤 可紗 ニヤマサオ アモス ティナシ 宇田川 友佳	
	専門職育成学	中山 登志子	井出 成美	野崎 章子	カズノブ ダビッド 植田 満美子	(特任講師) 孫 佳茹 天井 響子
	看護政策・管理学	和住 淑子 手島 恵	錢 淑君 杉田 由加里	高木 夏恵 飯野 理恵		(特任教授) 島田 陽子

附属センター

看護実践・教育・ 研究共創センター	センター長 (和住 淑子)				
専門職連携教育 研究センター	センター長 (酒井 郁子)	(井出 成美)	(特任講師) (白井 いづみ) 5883 (特任講師) (2614) (孫 佳茹)		

* 下線…正会員

